

労災情報たかやま (H30.12月号)

高山労働基準監督署
(安全衛生課)

平成30年(11月末時点)の労働災害発生状況について

主要産業の死傷者数

注1)右欄のカッコ内は死亡者数(内数)
注2)左欄の死傷者数は休業4日以上のもの

	H30年		H29年		H28年 (参考)		対前年比 増減数		対前年比 死傷者数 増減率
	死傷者数	死亡者数	死傷者数	死亡者数	死傷者数	死亡者数			
全産業	161	(4)	149	(4)	129	(1)	12	(0)	8.1%
製造業	41	(1)	34	(1)	38		7	(0)	20.6%
建設業	29	(1)	30	(1)	20	(1)	-1	(0)	-3.3%
運送業	12		11		9		1	(0)	9.1%
林業	23		14	(1)	13		9	(-1)	64.3%
その他	56	(2)	60	(1)	49		-4	(1)	-6.7%

非定常作業における労働災害防止を！

年末年始休暇を控え、事業場内にある各種機械のメンテナンス作業や大そうじ等、非定常作業の実施が想定されます。

非定常作業は、実施頻度の少なさ等から、機械の運転を停止させないままのそうじの実施、停止させた機械を他の労働者が誤って稼働させてしまうことによる、はさまれ・巻き込まれ災害、機械上面やはしごからの墜落・転落災害の発生が考えられます。

これらの災害を防止するためには、そうじ等の前の機械のスイッチオフの徹底、メンテナンス対象となる機械の特性を踏まえ、リスク低減対策を盛り込んだ作業手順を関係労働者に示し、作業手順に従った作業を実施させることや、高所作業時の墜落防止対策の実施やはしごの確実な固定等が必要です。

災害事例

災害発生状況

容器の気密試験中、密閉状況が悪く、所定の圧力を保持できなかったことから、蓋の取付状況を確認しようと蓋を固定しているクランプを緩めたところ、容器内に残圧があったため、蓋が吹き飛んで作業者の顔面に激突したもの。

災害発生原因

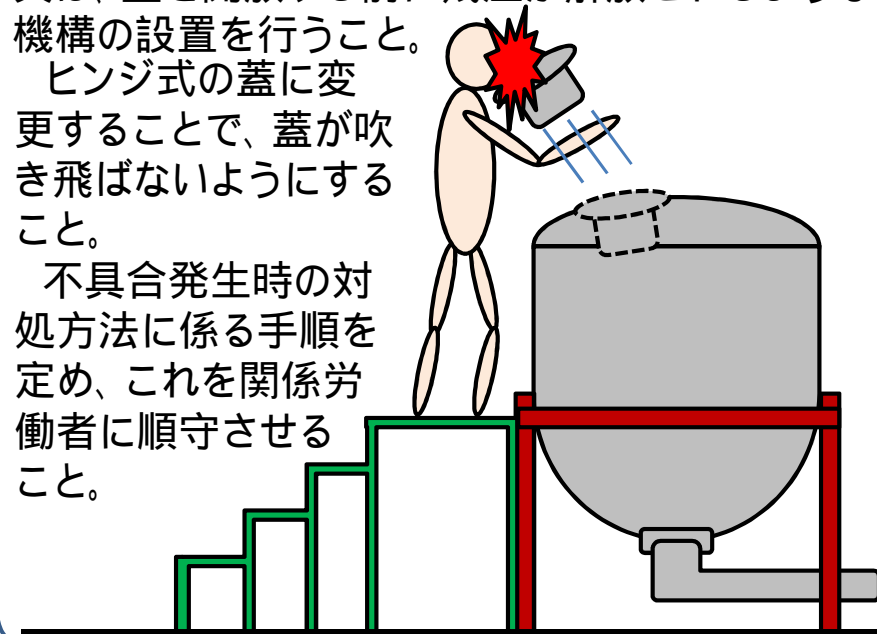
容器内の残圧が解放される前に蓋を固定しているクランプを緩めたこと。

再発防止対策

容器内に残圧があるときには蓋が解放されない、又は、蓋を開放する前に残圧が解放されるような機構の設置を行うこと。

ヒンジ式の蓋に変更することで、蓋が吹き飛ばないようにすること。

不具合発生時の対処方法に係る手順を定め、これを関係労働者に順守させること。



平成30年度年末年始無災害運動標語

みんなで感謝の総点検 笑顔で迎える 年末年始